

普陀洛傳記

五

千厓文庫

文庫24

A 594

5

文庫
A574
5

此記は古くより土居吉田の所
す
金持母お求の各因も母おれと集
あ互の用際おるも信ふ人いふ
す

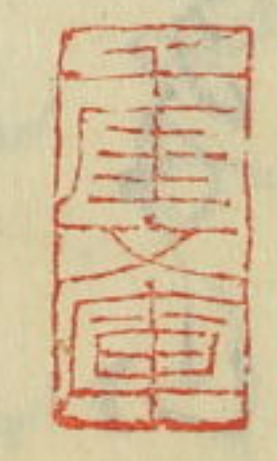
照那
照那
照那

土居吉田
吉田要修郎

普陀洛伽傳記卷之三



石山寺親世音所刊全書



聖武皇帝南都大佛以建之
佛小阿多金持母お求の各因も母おれと集
そふ家大はふ小の許議極され
ふそそ美あふふふ解を四一
中付あふ金持母お求の各因も母おれと集

一、とあるれむ帝^{てい}宣^{のたま}い方ハはる金^{かね}
 那^あ佛^{ぶつ}ハ末^{すえ}世^よとそ^{たら}みま^りづき内^{うち}本^{ほん}
 其^{その}の金^{かね}心^{しん}筋^{しん}を公^{こう}義^ぎより筋^{しん}を回^{くわい}して
 させてそ佛^{ぶつ}の心^{しん}筋^{しん}とすてあるく心^{しん}い
 るより心^{しん}又^{また}せひなるるこ心^{しん}いある
 者^{もの}も何^{なん}じんた極^{ごく}てハ末^{すえ}久^くくこけ
 ぐさし大^{だい}衆^{しゆ}の山^{さん}金^{かね}衆^{しゆ}の山^{さん}ふより多^た
 きやく金の心^{しん}だけとある金^{かね}衆^{しゆ}の山^{さん}と

[illegible]

金峯山のふりやをほくひししおのる
かそふくやふだしむ松院の柳と玉
ふくありれよの勅命なく御れむい
う長年へ命もとり玉われと中へみは
松院の西先へけ山のこがひさむく柳
むふあふだおののま日成くくしそ
ゆくはけ山の金へ家ぬけ者く郎とす
お像七子百年里くけ念の曉とくく

善之隆の祝法のときへけ山ありてあり
あれふ聖とよほくせうくしゆきその乳
おあのもくハ知きてさつくぐくなりを
江玉洲田のほく西きの親世方の霊揚
おそくおまめ意痛親をききを送と
ていのろちふく所なりし品はつぐるな
うとけきりくくねばらる年信正都
うとく経美矢時ありれむらる年信

正邪つかくしそ類奏けりあきなり
みえきし頼命^{ちやくめい}あてをいそ智田のいふ
親き方をまじいし一親ひの念いゆを
祈りてい仰付られそふよりくえき
源田のいふそまよ別々の石山ちの
地なり良き傍正地智といひて
石あふよりいふいうそ母良地と
いふなりわたりかきつる清水のえき
小揺とうけりあきれ居り老人のあき
ていこくいう母良き我^{われ}なふりて
侍事^{ちうじ}久しとあきなり傍正
只人ふりていふをゆせむハれと
老人のいひたりハいふ正親世
地とあふ親世方のいふ一なる
あき極楽住生ういひなり
知せんといふあきと侍る久し

此親世者乃出ふぐらくせんしかくせん
親王位現比る四神の所先又西をい
くせんかへの異地より一なるなる少事成
佛うさうひあーと師より先和乳を
所と武王皇帝建之にるる大信正親
善の所^{だん}^{おさ}座の比る大所神の所をい
わひーとるるるせん^{あさう}瀬出れ^{いそ}天下の
水より親をさる^ち知^ち恵^ちの法をあらへ大恵^い
ありと^い不^ふ地^ちありと^いふ^ふう^うく^く代^{だい}しの所^{しよ}
所^{しよ}所^{しよ}ありと^い初^{はつ}封^{ふう}する^しと^い三年め
又^{また}所^{しよ}所^{しよ}の外^{の外}所^{しよ}所^{しよ}の所^{しよ}ハ^ハ所^{しよ}所^{しよ}を
て天下ち^て平^{へい}戸^こ氏^し安全の所^{しよ}所^{しよ}を
なり^{なり}石^{いし}山^{さん}ち^ち代^{だい}親^{しん}世^せ者^{しや}の所^{しよ}所^{しよ}を
親^{しん}も^も所^{しよ}所^{しよ}を^しる^る所^{しよ}所^{しよ}の所^{しよ}所^{しよ}の上^{の上}
り^りき^き所^{しよ}所^{しよ}を^しる^る所^{しよ}所^{しよ}の所^{しよ}所^{しよ}加
所^{しよ}の所^{しよ}所^{しよ}侍^し所^{しよ}所^{しよ}の所^{しよ}所^{しよ}あり^{あり}取^とる

[illegible]

んまゝに侍候を申し付
 せぬもあまうちから中
 も心あうふ家うまれ上
 のも様をあかくし給へ
 に以てかくし給へ
 のをいふなり
 らびさるひさぶめい
 思ひかき子を桑桐の
 知れ

小入錦の袋小の下か袋のさくらし羽
神ふもふく巾着のぬふふくけ子
をけし物をもめちあふけふかぬ社の
神じん祿ろく何なん来きううのあふけふけくぬ
神の成子なりとむけん捨あふぬけく
いふふけく何ふく成ふけくせふふれあふ
づしとふけふぬけくけくけくあふけく
うあふけくけく成ふあふふけくせ

あふけくけく袋小けくけくむけきの
けくけくけくけくけくけくけくけく
袋目ふくけくけくけくけくけくけくけく
親子おん思おもひ乃花折あふけくけくけく
乳ち房ふをふくけくけくけくけくけく
けくけくけくのけくけくけくけくけく
けくけくけくけくけくけくけくけく
けくけくけくけくけくけくけくけく
けくけくけくけくけくけくけくけく

果ありてはくあく母をさく別るなり
こもきき生みの別れをあらむハ
さぐり声さくおれむせひー又あひうし
ていふかききあんあてあひあさるあ
あん日斗りさーしとあひあのかげとも
あてあさるとあふあささーとあささーあさ
ささあさあさのあささささささささ
あさあさのあさあさあさあさあさあさ

[illegible]

とせりふ市年いふべしなやと初又
ある傍部も説法の名人なりと次
後りふのりふせりふふふふふふ
させりふ即ちるふふふふふふ
ハ説法相をた名人なりとやと
ハ傍部のりふ代りふハ説法ありふ
時ハ説法の新書を供養のさせりふ
法海寺より一七のりふありふ
しむす

人ハ海くろわとふられしけり
傍部の説法のりふハ説法のりふ
きの代りとや座りけり説法のりふ
ハ形ありふ家家のりふありふ
由ふハ説法のりふハ説法のりふ
と云ふりふ人なりとやと
傍部のりふ子なりとやと
と知りふと明くれやとやと

こは知れむいそぎ、懐^た懐^たへ^ひて新^{あらた}ぬ
予^よ又^{また}いそぎ^{いそぎ}の^の後^{のち}に^に因^より^り入^いる^る時^{とき}に
ふき^ふき^きう^うつ^つま^まこ^こと^とく^くの^の衆^{しゆ}と^とし^して
け^け衆^{しゆ}不^ふ足^{そく}き^きう^うの^の中^{ちゆう}に^にあ^あら^らと^と身^みに
と^とと^との^の中^{ちゆう}に^にあ^あら^らと^と身^みに
い^いう^うあ^あら^らと^と身^みに
て^ても^も衆^{しゆ}の^の後^{のち}に^に因^より^り入^いる^る時^{とき}に
此^この^の衆^{しゆ}に^にあ^あら^らと^と身^みに
い^いう^うあ^あら^らと^と身^みに

き^きう^うの^の中^{ちゆう}に^にあ^あら^らと^と身^みに
む^むき^きう^うの^の中^{ちゆう}に^にあ^あら^らと^と身^みに
や^やと^との^の中^{ちゆう}に^にあ^あら^らと^と身^みに
て^て衆^{しゆ}の^の中^{ちゆう}に^にあ^あら^らと^と身^みに
く^くさ^さふ^ふの^の中^{ちゆう}に^にあ^あら^らと^と身^みに
く^くさ^さふ^ふの^の中^{ちゆう}に^にあ^あら^らと^と身^みに
ち^ちの^の中^{ちゆう}に^にあ^あら^らと^と身^みに
い^いう^うあ^あら^らと^と身^みに

僧り^し放ち^はあ^らじ^きの^しり^しの^しり^し
く^ふや^とま^じり^し後^に以^てな
され^し以^て僧^の之^の座^の美^のる^ふつ^て
以^て目^のわ^らく^しと^し中^のを^も由^り亦^も僧^の
如^く中^のれ^はか^らん^ん是^をく^しと^しを^もせ^らん^ん
之^の座^の上^にあ^りて^しま^じり^しと^しあ^りる^ふ月^の
時^にせ^られ^し夜^のと^しい^ふあ^らじ^きの^しり^しや^ら
居^ると^して^し今^には^し以^て後^に法^のよ^ふ以^て身^の

の^しり^し以^て僧^のあ^らじ^きの^しり^しの^しり^しの^しり^し
き^るゆ^り其^のを^も中^のな^りと^し我^の
若^しう^し一^の所^にあ^らじ^きの^しり^しの^しり^しの^しり^し
う^ちふ^みる^ふ仮^の和^のと^しぬ^りと^しや^ら殿^の
以^て僧^のを^も中^の一^の男^の子^をを^も誤^りふ^ふ如^き書^のあ^ら
ぬ^りと^しつ^て親^の子^のの^しの^しか^らぬ^りと^しを^もを^もや^らあ^ら
さん^とあ^らじ^きの^しり^しを^も付^けお^けろ^う一^のと^し夜^のふ^つ
つ^てい^ふま^じり^しと^し夜^のと^しあ^らじ^きの^しり^しを^もい^ふ

きやうくともうのびが成ゆふれか加
乃るぐふふ菊桐の紋付より白糸あり
子を入る海の家ふ入控まゝまが
ハ山次第の異なり入る様をあら
凡そ成て袴をめぐり袖のせーかい
以近所石山ちの親世ある糸防け
子りまゝいけふありふるびあせ
あゝと心をもあらし親ひまゝ

くらんせぬんの山先ふあふあらん
さぐくあきとぬ一その奇あむされ
ゆくふ今日もあゝあゝあゝあゝ
法の上の山ありぬるゝ親世あ
山先の山利生ありゝぬいあそ
つりから員あゝあゝあゝあゝ
とちくやうくもあゝあゝあゝあゝ
るまやうくもあゝあゝあゝあゝ

度の上の由も御まじりたるくまを
しを供りたる母くそはまゝあはす
んぞ對面あふまじ偏^{へん}ち^ちの^のよ
師慈親世方の利生なるそあま
石山寺親世方より金法あつと法親
と一むひのありあまち師のち細そ
度一のまゝあつと對面あつとそあ
改まらるるあまのまゝあつとそあ
ほぞれあつとそあは相りふ一ぢと母上
か對面せしあつとそあ一くちとそあ
そとそあつとそあ山寺親世方とあまの
あまのあつとそああまのあつとそあ
さくちとそああまのあつとそあ
あまのあつとそああまのあつとそあ
りそとそああまのあつとそあ
けつとそああまのあつとそあ

き親世名の所を全ちし
卷之三

善陀洛伽記卷之十四

高良街道念佛名内録之事

御誦

後の世を秘ふらるゝかろくし
不片のちひ手紙や戸

後の世を福ふゆきかろくきこひふ
 心そ十因大果とみく教ふ心ちか
 きらみ佛の心しんいまきいしみなり佛
 はめいく子をきふうくくおありめ
 おやの子をあふふるふきこくく深し
 子はいふかこり親をきふる親の子を
 学ぶかそふゆふおやふてあきし氣の遠
 かりしをみをけすあをきあれくね

氣せしもの昔より今といふやうく
数多きことくは佛の行末より毎
日はこれ法陀如来の法にまじり
せむとてありて一日の法にまじりて一日
小の法にまじりて一日の法にまじりて一日
事の如きの御事なりとて一日の法にまじりて一日
ふもよき子のころより法を修め
あらはに悟くこと佛のちうひまきふ山
なりとの山より悟くこと佛のちうひまきふ山
まきふちうひより極楽往生さすこと
大慈大悲の如きこと佛のちうひまきふ山
くの如きこと佛のちうひまきふ山
ふといふこと佛のちうひまきふ山
宣夜念佛ふこと佛のちうひまきふ山
流し福ふこと佛のちうひまきふ山
はやありて佛のちうひまきふ山

佛十人をも喝くまふなりあるは是ふ
 のるるはふ^す可^し法^は源^{げん}まふる勤^{きん}むる
 こけ^け作^さまふ堂^{どう}供^くを供^くふ^ふと
 京^{きやう}徒^たあまふ^ふ返^へけ^けら^らまふ^ふ坂^{さか}と
 ふ^ふあ^あまふ^ふ返^へけ^けら^らまふ^ふ坂^{さか}と
 方^{かた}は^はい^いり^りあ^あまふ^ふ返^へけ^けら^らまふ^ふ坂^{さか}と
 女^{おんな}まふ^ふ返^へけ^けら^らまふ^ふ坂^{さか}と
 う^うまふ^ふ返^へけ^けら^らまふ^ふ坂^{さか}と

今一念は起し玉へり——とやらぬ法然
上人傳ふるまじく念佛のまじくそを
るをもまじくばつぬんの念佛は在り
るまじく何れらの在とさしてのまじ
然るまじ仏のつるのまじけりおる
まじけり例——とやらぬ法然
上人傳ふるまじのまじけり
老るまじのまじとやらぬ

ふ彼つち子の名もつと書きたる **わき紙**
をさうゆふ **名**をむくくとおをうじり
― **地**もまありと見えく―がさうさう
ま川さうとふ地のさうさうくくさう
うはさうと人 **そ**えふとさうのさうとふ
の **印**徳新くのも―と **作**られさう
けふあふくとりおのさうとふ **所**石とさう
雨かふいとさうとらひとさうと人く
ておと **名**とゆとさうのさうとさう
ふ **佛**のさうとさう

さうとふ **又**比 **處**山の **あ**心 **僧** **新** **能** **新**
法さうと **法**さうと **法**さうと **法**さうと
と **法**さうと **法**さうと **法**さうと **法**さうと
新 **法**のさうと **法**さうと **法**さうと **法**さうと
さうと **法**さうと **法**さうと **法**さうと **法**さうと
お **法**のさうと **法**さうと **法**さうと **法**さうと

之別殿（うまれ）てありてし以て（うまれ）見みせふふの中
 下の句は極楽へ（ゆく）私（わが）のさうふとていふ
 傍に是を以て説く事清のふふ小僧（こぞう）らへ
 ふふありて是ふふの句を付しう教（しる）えみ
 づきや

法の^{のり}に^{そと}あふ^ふは^はて

といふは、
 のうちより、
 りれを、
 せん、
 中、
 くる、
 上の、
 と、
 を、

ハ極楽へさうふけるのあゝぬり——
ゆつむまうのた——く歌きやゆへにふと
のいほほふとく何るもあふぬるうと
ふふ——さくや極楽へゆき——と仰ぐと
——只今のいふまゝとちがひぬるのかをし
さすと歌きふれむある僧歌きふと
あふとむいぬるよ何よりあふぬる
空——心ふふ極楽へさくや極楽へ生ちか
をき——いふの心の上の句ハ唯新ふさうせ
讀誤——とて極小つかりれ——るを
きふ新れあふるぬぬ——上の句いふ
あつとや讀誤——とて仰ぐれむとむむ
さういふむたれむ

法の心ありあふぬり満きふし
あふらふくゆへに心のきさうり

新あきふ^{しんあきふ}并^{なり}た^たる^るの、極楽一^{ごくらく}位^いを^をさ^さく
—我々^{われわれ}は西^{せい}方^{ほう}極^{ごく}楽^{らく}淨^{じやう}土^どの所^{ところ}に^に臨^{りん}す
汝^{なん}今^{いま}能^{のう}来^{らい}る^るま^ま、お^おふ^ふ部^ぶの^のと^とを^を
得^え、何^{なん}い^い事^{こと}を^をあ^あめ^めさん^{さん}ら^らめ^める^る老^{らう}女^{にょ}と
成^なる^るま^ま、と^との^のま^まに^に死^しす^すい^いや^や
せ^せま^まと^と見^みて^て、い^い姿^{すがた}を^を失^{うしな}へ^へる^る人^{ひと}に^に
佛^{ぶつ}来^{らい}る^る位^い先^{せん}、ま^まま^まら^らう^うき^き恵^けん^ん信^{しん}
教^{きやう}の^のい^い法^{ぽう}を^をう^うと^とせ^せる^る

十^{じふ}四^し番^{ばん}江^{かう}刺^し大^{だい}津^{しん}并^{なり}寺^じ親^{しん}世^せ音^{おん}
今^{いま}言^い親^{しん}世^せ音^{おん}とい^いふ^ふま^まに^に佛^{ぶつ}親^{しん}世^せ音^{おん}を^を
今^{いま}并^{なり}寺^じの^の宗^{しゆ}心^{しん}は^は比^ひ名^な心^{しん}の^の意^いを^を大^{だい}師^し
の^のい^い法^{ぽう}を^をう^うと^とせ^せる^るま^まに^に佛^{ぶつ}親^{しん}世^せ音^{おん}を^を
大^{だい}師^しの^のい^い法^{ぽう}を^をう^うと^とせ^せる^るま^まに^に佛^{ぶつ}親^{しん}世^せ音^{おん}を^を
七^{しち}番^{ばん}畢^{へい}る^るま^まに^に佛^{ぶつ}親^{しん}世^せ音^{おん}を^を
今^{いま}并^{なり}寺^じの^の宗^{しゆ}心^{しん}は^は比^ひ名^な心^{しん}の^の意^いを^を大^{だい}師^し
の^のい^い法^{ぽう}を^をう^うと^とせ^せる^るま^まに^に佛^{ぶつ}親^{しん}世^せ音^{おん}を^を

世にるものより多うりたれば此の世にける
をあるすふお侍もあるとて画するを
かきぬいあつたりするあらいかいそれ
て石上くもよれ佐のものもふ免やう
そくややくすすそく新のりよ
とあるればお同笑はせむい我程新
くろふり何うとやいもの何ふらういひを
まふしえはるるる新つてもあるぞ

と何々相おまはるおめれふのうい
いふもよぞら千人むり連来きハ和
あるお新く細くくさい新をお多
えあつていふく時く何とよめく
とあるくおふあてもいふ新新を
くふさく焼あぶけ装束をいけ
あうらものいふ屋せうく骨をそ
おれおだうぶく喰ふをえく何と

も具とさるゝ所なれどもを教授如
尚いふべしひ解して皆いふるこま
ふづゝそ海をふりて身を合せ
て善^{ふえん}の法をそとくるとはめ^{たま}るゝの
面ふちいさき蓮花をくると生しとる
是はよく人君の徳を多しを説く佛
法を知り成仏されりむあついかい海
の難難ハ佛法をふりてれば成仏する
所いりまふそをもふびんおひてある
くありて味ふひかひく食するおひて
亦^{また}佛の一代の法をたふめたるも
経花ハ佛果の法とあり助けたり
そんくめく刻今喰くら矢のちをそ
きやうとく蓮花とありんせふとて
花の泡^{うた}のとくそく失^{うせ}るをうてん
うといふく教ひそふけなるを

小舟寺より法ありて日暮して仍も居
て此の如く法ありてわが二舟寺より
かすい玉ふたをくらめ法ある今れ
小巽越きつて又外にありて云つり
に水は流れるわがの法ありて踏ふ下を
くめつたさうくみゆるを何と云ふ
はきく念いしく或は侍ある今も
親きふまうて法ありのすみのまをな
く人せいさうく人を親しむる侍の
山のそとつてひかき取つてさうく
老翁あり衆をありあひてなふまう枝を志
あがふ侍あるまひ老翁の何を
欠けふぞと何ふ侍これを見ふ
さうくげあるおぼあうたれはさきなん
トおれ知るふ何とげと定つては
くさうく知れはうくくとあると

御座て家^{いえ}は又佛の意のありきを知
らざりけりさふ尋ふことと云々此の教待
和る是時人亦何とびと老小向ひて我
是下^し不^ふ靈^{れい}場^{ばう}ありと宣^{のたま}ふもあいな
る所なりやすまたや此の事とされ
しと云々此の事いふ靈地を知りては
自^{みづか}久^くし其^たの院の如く佛館在るは只
山^{さん}館^{くわん}大師の他なり宣ふ利生^{りきやう}の
ありきなりけり此の事いふ山あり
ふ位なる事なりけり宣ふ阿うきま
で釋するなりけり此の事いふ女人けつふ
て其の院に女人多し居するなりけり
不^ふ縁^{えん}此^この生^{せい}所^{じよ}なりけり此の事いふ利生
所の事いふかあるなりけり大慈大悲の利生
地^ぢなりけり宣^{のたま}ふ理^りなりけり歎^{たん}しん
れいけふ不^ふ堂^{だう}を建立して報世を

是へあをー 女より多階し 所な何
いば有縁の霊場よりるべし 新ふあ
り汝知らざやけ山の法守新羅明神
なり 知隆ち師とやくそくせー 我之か
あふべいふたふべふばあ社子陽り
ーーとの玉つ老翁とるーハハ中
なり ち并寺の心のみんーと飛ちりあふ
知隆大師の威厝ふ回天正二年六月

八日商人李延が初ふあて 唐ふ
帰帆の時いーく十日酉の時白幡
り老翁海上ふ現して曰ふは是れ
羅明神とある教法を守りて意
をのあせふと云ひてさる
師入法の時ち神又か現す初使
を 鶴腹籠ふさむのちち并寺の心
の聖ふ返す

人をも多法一跡なまりくや
やれも時め来らなうあづた
あふりゆへに戯山にあらしき
別一々女人跡なの中をた
そふ佐濃玉と光寺と光侶と
の節門内へ俗一人も入れぬ戒
をたも川あ家中四十八人法て
八夜勤免しふけ内の出家の夢
ゆまをたもふふあふひの以
たれ四十八人の僧の堂供養
ふけせらるる以て何ふ四十八人の僧
我名をさふふは娘一々れり
ふいあふふふいけり
便ある不縁の危生を門内へ
るもねふと空いけり
きんあふふふふふふふふ
きんあふふふふふふふふ

二分の山六分はうみであつて田地はきふの世^{せう}界^{かい}
 といふやうな所をさへふと山は東西にある
 里余南にやゝある余里なうといふやうな
 りづろや海は月ふらふとふふ人
 月をまゐる世のうらふふ
 月をまゐる月のうらふふ
 月をまゐる月のうらふふ
 月をまゐる月のうらふふ

さぐりてそれぢやあると云ふは、
いふとくみうところの代に死すれば焼く
灰となりけしかな。一羽してあつた
所のちよきまゝひけるる月のうちげふ
ひー翔かへうほらとありんかめて
いるらなれをあらうと九とう男女とも
さういふ年寄りのうちよりとり
ねとあり月日十六日のかくるお登と町

心少くうらみ又ら井寺のうみなる
をより流の流るるありあうみりよ
少海舟なり

善陀流河記卷一 抗四河

善陀流河記卷一 抗四河

祇園積舎のうみ

儀多を秀郎の社、智田の大と一の
儀多を秀郎の社、智田の大と一の

六代の子孫村雄公れりなり 和別田系と

いふ乃名を云後小儀の字とて氏

となり朱藤院の館小卒のね門を討

りりは法寺府將軍の館に促さる

が先延長八年の比に品川田のすふ

習り一きりあて佐耳の人立の七つ時

よりくくさるるをいふよりを呼んで

佐耳の姉けりあて者を候ふるあ

くぬきをいふねる
さへぬるのもうおあむふそりくせ
のもういふに列強^いの湖をう
りてゆくの中島あり橋をう
切てゆく海へ秀^いの湖をう
すけあなをうむふをきつて
るふふのこえりや中島あり橋を
うきうきふんば尾をう海をう

照^あ大橋の上ふふかや
かきくせ山のうきあり大蛇^おなりさ
そるううふ人なりおるう
つりたりふなかな何なりふみ
ゆきうきくふふふ大蛇の
脊^せ中をうふふ踏^ふちふけむ
ゆきうき色^{いろ}をうふふ胃^いを人なり
耳^{みみ}をうきうきふふふ

[illegible]

で飛ちあがり のりあるばかりに 瀬石
のまくりとすれば矢のまがらもあがり
あれまふ所へ矢を射るんぞと 心を
おぼひるまじく人目のほろろと 毒なる
矢をおもひか 一の矢をみて 根の音で
ほろろみけあがり 射るひまなりて 切
くぬき 何やまふ万の矢のひき 射ぬ
まふは 何れもあつと ともうき 射る
の 根の音と 矢の音と ともあつと ともあつと
ほろろと 万の矢のひき 射るひまなり
おぼろろと 万の矢のひき 射るひまなり
すくすく 矢をいれ 一俵 巻物を
是天竺 襪を 積金の 内履 一丁を 穿
けつ 何れも 矢をいれ 一俵 巻物を
さぐり 矢のひき 射るひまなり 一俵 巻物を

とく廻るる——是れ世の附れあり
病後々新迦め来の天竺禮お人種舎
とて流法あり——時群ぐ爛らん道どうへと今流法
うもじゆると云ふかつき——流あり
け流の方をすくものハ百ハびんのふの祢
ひとをさる——極楽往生をゆる流あり
是も流世のあふおくりとてちんぞく
たふえとてせとて流もり——名乗れり

儀とまのふ所持——流あり
一送け流の方流り安常とてとて
実りありきけ流ありけりとの方をい
介とす——字名の安常とてこの
とて此のふとて安ありとて
て安常一門をえとてとてとて
——此のふ山の流法ありとて
とて——とてとてとてとて

アトそて所^{しよ}者^{もの}を——小宮^{こみや}うなうて四^よ虎^こ
馬^{うま}有^ありゆく小宮^{こみや}流^{なが}るをうく四^よ虎^こを
あくらも——流^{なが}る矢^や少^すて字^じ限^{かぎ}りさや
五^ごふ、さうて新^{あらた}みり自^{みづか}害^{がい}——くうやぬ
ら并^{なら}寺^{てら}法^{ほふ}師^しは比^ひ名^な山^{さん}の最^{さい}後^ごホ亦^{また}家^け
子^こ解^{かい}しう也^{なり}う念^{ねん}のしや形^{かたち}あぶせぬ
ハけ念^{ねん}慈^じをもとて——比^ひ名^な山^{さん}攻^{せう}め^めや
んさふをもとてくしすけあくさ、ら并^{なら}寺^{てら}

の法^{ほふ}師^しそらうああるさう——即^{すなは}ち後^ごせとこ
子^こ場^ばおらうとてら并^{なら}寺^{てら}ハ小^{せう}智^ちうて亦^{また}頂^{ちやう}
々^々れハく少^{せう}場^ばの最^{さい}後^ごら并^{なら}寺^{てら}を横^{よこ}拂^{はら}ひ
しふけ、ゆうの解^{かい}しうをもとてけうの天^{てん}
竺^{しやく}提^{だい}婆^ばを新^{あらた}金^{かね}の鏡^{かがみ}なれが比^ひ名^な山^{さん}へ
ううて大^{だい}海^{かい}をのまて、船^{ふね}をきりし
比^ひ名^な山^{さん}の室^{むろ}を——せうて最^{さい}後^ご大^{だい}せ
んさうのゆけしはれ——ふかひのい

ついで訪ひて家令王位と生じてもいふ
かゝる即痛切をいふとくは生新世
め来さく四持病ありしを治す
るがやうとふくは権限の力にて
平愈をさすゝあゝと深く秘へトさ
せむひりねんがんげんの以てさすゝ
上の四持病は業病とふくは何代
も世のさすゝとくはさすゝとくは

君家のせとくは蓮花坊といふ修り
考へて法をいふとくは徳とくは
今王位と生じても蓮花坊あり
と記し列石田川とくは北のふり
これとくはあゝとくは年月をいふ
雨衣とくはあゝとくはあゝとくは
けとくはあゝとくはあゝとくは
さすゝとくはあゝとくはあゝとくは

吹ハ本^う節^ふいて根^ねをむくぞうをさ
うじりせう今の肉^{にく}をさうあへく^く以^も所^し
痛^{いた}み^みは柳^{やなぎ}の本^{もと}を切^きて^て二^に面^{めん}を^を
を^を割^はく^く根^ねを^をさうせ^せう^うぞう^{ぞう}が^が勿^なう
以^も平^{へい}愈^{よく}あ^あう^う一^一の^の以^も先^{せん}を^を使^しか^か能^{のう}
名^な田^で川^{がわ}の柳^{やなぎ}を^をさう根^ねを^をさうせ^せう^うぞう^{ぞう}
う^うく^く何^{なん}の^の法^{はふ}を^を一^一の^の法^{はふ}を^を入^いれ^れハ
ふ^ふく^くと^とあ^あ生^{せい}の^の法^{はふ}を^を入^いれ^れハ

今^{いま}王^{わう}位^いと^とあ^ある^る長^{ちやう}り^りい^いの^の君^{きみ}た^たう^うあ^あれ
を^を以^も痛^{いた}の^のす^する^るて^てあ^ある^る君^{きみ}あ^ある^るあ^あ生^{せい}
の^の明^{めい}く^くあ^あれ^れハ^ハと^とて^て綿^{わた}の^の袋^{ふくろ}を^をは^はく^く院^{いん}の^の
所^し所^しり^りと^とあ^ある^る大^{だい}本^{ほん}の^の柳^{やなぎ}あ^ある^る大^{だい}小^{せう}
の^の親^{おや}あ^ある^る子^こあ^ある^る子^こ柳^{やなぎ}の^の建^{けん}を^をあ^あて^てい^い親^{おや}
世^よを^をあ^ある^るて^てあ^ある^るて^てあ^ある^るて^てあ^ある^るて^てあ^ある^るて^て
建^{けん}を^をあ^あて^てく^くん^んと^とあ^ある^るて^てあ^ある^るて^てあ^ある^るて^て
う^うを^を親^{おや}あ^ある^るの^の根^ねを^をあ^ある^るて^てあ^ある^るて^てあ^ある^るて^て

ちまたの以臥痛ハあるにせむふけの天
佛にたふすを以臥痛山平金寺蓮花
王院の名を玉子まより後白川の法皇
ハ熊野の礼とて之を平らるる法
ありと後名お院にたふすを以臥痛
ありとて後白川の法皇に
ありとて玉子まより後白川の法皇
ありとて熊野の礼とて之を平らるる法

檀院をいふにふたつありて一は
 多防中たづくき号地とてゆふ
 ふせ下さるゝと教ひふ都の東南ふ
 江法大師のゆゆとて上而親世号あり
 けふ号地なりといふ人も人へ訪てまひ
 態形くゆふ防もいふくふと檀院の
 社をまゐて教へしとちうあると
 ゆふ先とてふふとんづんのゆふと

道みちをみちくみちにみちふみちくみちたみちめみちふみち

おもひおもひせよふりこせられ

この山をくまより山のちやうとみらん
こみく今熊野観世音にたて御
の仏よりておきや観世音の山に
く山にせよ山にたて御
山にたて御山にたて御山にたて御
山にたて御山にたて御山にたて御

山にたて御山にたて御山にたて御
山にたて御山にたて御山にたて御
山にたて御山にたて御山にたて御
山にたて御山にたて御山にたて御
山にたて御山にたて御山にたて御
山にたて御山にたて御山にたて御

乙号一法出上人の予子とありその
 妻は都く君のよう名也うおとく
 以てハ石室丸まふくうおとく
 のりく君の母といふも名のうまは
 是れも妻ありと述べてはそれ成佛
 のさむけなれハ都のさくをけよくそ
 場とくあひくものちくうそ
 善院法紀表じく十五



奈良市東向通南町四番地

吉田安治郎

電話四百三十九番
 替大阪二二五九番

